

V. 特記事項

1. サガ・クリエイターズ・クラブ（SCC）と卒業生ネットワーク支援

芸術系大学である本学では、さまざまな制作（ものづくり）が学びの中心にあり、卒業後もさまざまなかたちでそれを継続していることが多いという特色がある。そこで、同窓会とは別に、大学として制作に携り続けている卒業生のネットワーク作りのサポートと、その幅広い人材の活動を教育現場に還元すべく、サガ・クリエイターズクラブ（以下、SCC という）という組織を「芸術センター」の所管によって運営している。

SCC では卒業生の活動状況をメールマガジンの形で配信するとともに、定期的にワークショップや講演会を開催するなどの活動をしており、それらの企画には在學生も参加することができ、芸術制作・表現の第一線で活動する先輩たちを身近な存在として感じ、交流できる場となっている。本学の前身である旧嵯峨美術短期大学、京都嵯峨芸術大学・同短期大学部、現在の嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学の卒業生、退職教職員など、おおよそ 670 人（2020 年 4 月現在）が会員となっている。

2. 学外作品発表活動

芸術大学の学生にとっての社会経験としては展覧会やアートフェアなどでの作品発表が、企業等でのインターンシップやボランティア活動以上に身近であり、将来の自身の活動をイメージでき、直接的に学習意欲の向上につながる面がある。

本学では地域連携活動の他に、学外における展覧会の自主企画をはじめとする作品展示発表の機会を積極的に作り、作品の発表や販売を体験させている。それによって授業だけでは伝えきれない美術業界の現場に触れることができるとともに、作品の展示構成作業などを通じて「制作した作品のその後」に意識を持つことにつながり、将来の目標を具体的にイメージすることができるなど、学習意欲の向上にも役立っている。

3. 新入学生の学修支援

新入生のスムーズな大学での学びへ繋げるために、入学前にAO入試、推薦入試の合格者を対象に「入学準備プログラム」として制作課題を課し、その講評会を12月と、2月に2回おこなっている。受験勉強時の制作習慣や意欲を維持することと、入学前から同級生や担当教員とコミュニケーションをとることで、大学生活や学修に対する不安をなくすことに効果をあげている。

また、芸術学部造形学科においては、オリエンテーションの一環として、授業開始前に郊外の宿泊研修施設において1泊2日の研修合宿をおこなっている。学内における履修ガイダンスなどと内容と雰囲気を変えて、教員の研究活動のプレゼンテーションや補助参加の上級生によるレクレーションをおこなうなど、相互の交流促進に重点を置いた設定としているが、その流れでスムーズに授業に入ることができている。

これらの取組みによって休退学者が減少し、初年次の実技系授業への学生の取組みが伸びやかで積極的になっている。